

勿論關係深いがサザンクワに似た處があることは花の着き方や苞の數、蕾の形でもわかる。

- 1) Gray, A. (1868) Field Bot. 76. *Camellia japonica*: terminal or nearly terminal flowers.
- 2) Benthām et Hooker (1862) Gen. Pl. 1: 187. *Camellia*: flores axillares solitarii v. aggregati, sessiles v. breviter pedicellati.
- 3) de Candolle, A. P. (1824) Prodr. 1: 529, 530. *Camellia japonica*: floribus terminalibus subsolitariis. *Thea chinensis*: floribus axillaribus solitariis.
- 4) Stern, E. E. (1887) Note on the inflorescence of *Camellia japonica* in Bull. Torrey Bot. Club, 14: 32-33.
- 5) Melchior, H. (1925) *Theaceae* in Engler, Pfl.-fam. ed 2, (21), 109.
- 6) Baillon, H. (1873) Hist. d. Pl. 4: 252. *Thea* (incl. *Camellia*): floribus axillaribus v. subterminalibus, solitariis v. subcymosis paucis pedunculatis vel sessilibus.
- 7) 中井猛之進 (1940) 植研 16: 691, 702. *Camellia*; Flores subterminali-axillaris solitarii. *Thea*: Inflorescentia fundamentale cymoso-triflora sed vulgo seductim 1 (2) flora.
- 8) 久内清孝 (1936) 植研 12: 832. ちやの木の花の咲き方。

ρ

○話題三件 (久内清孝)

○ものしおり 現行の中等教科書にものしおりと云ふ布をカラムシの類で織ると書いてあるが、そのカラムシは何かと質問された。これ伊豆、三宅島坪田村で稀に出来る布で、材料はシマナガバカラムシであることは佐竹義輔博士が、本誌 13 卷 7 號及び 14 卷 2 號に詳述され、後の方では布の寫眞が載せてある。

○ミモサ タンニン材料として用いられているミモサとは何かと問はれた。これオジギソウの屬名 *Mimosa* と同じ文字ではあるが、全く別物で、専ら商品名として用いられて居るもので、*Acacia* 屬のものゝタンニン資源である。

○ブスと云うのが小學五年の本に出て来る。もともと、狂言の名であるが、ブスとは何かとの詰問であつたが、これは附子のことで、一般的には、トリカブト類の塊根を呼ぶ名である。極めて有毒なもので、特に北海道の種類に毒性強く、昔アイヌの矢毒だと傳へられて居る。昔から話題を提供する品物で、江戸時代にも色々詮議されたものらしく、荻生徂徠が「南留別志」と云ふ本で書いて、ブスと云う毒附子のことだと一石を投ずれば、高田與清は「擁書漫筆」で之に應酬して、ブスは附子だと云うのはよいが、毒をブスだと云うのは悪いと云う意味を述べているが、昭和の今日、またあちらこちらでこれについて、ブスブス云う人が出て來たのは面白い。